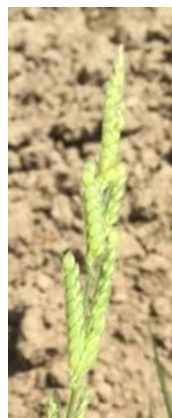
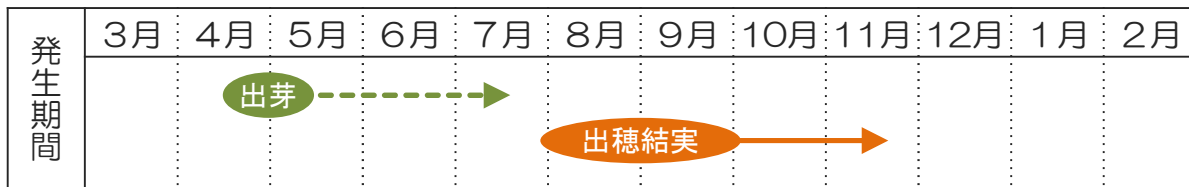


# ナルコビエ

イネ科（ナルコビエ属），多年生



河原や畦畔などに自生する。他県(東北)の連作ほ場では、初発確認から数年で収穫皆無になったとの報告がある。本県の大豆ほ場でも、2016年に複数の地域で発生が確認され、収穫皆無となったほ場もある。



形態的特徴	第1葉は丸みを帯び、第2葉以降は一般的なイネ科雑草と同様に細長い。葉身は短毛が密生し、柔らかい手触り。出穂前に他のイネ科雑草と識別するのは困難だが、穂の形は特徴的で、5mm程度の円形の小穂が2列に並ぶ。草高は1mにもなり、結実後は花序の毛が白く目立つ。
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野草地では株で越冬する多年生とされるが、作物ほ場では種子のみで繁殖するとされる。</li> </ul>
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌処理剤:一般的なイネ科雑草と比べ、種子・幼植物が大きいことから、土壌処理剤の効果が劣る可能性がある。</li> <li>・イネ科対象茎葉処理剤:大豆バサグラン液剤等との混用処理で効果が低下すると考えられている。</li> </ul> <p>本県ではワンサイドP乳剤の単用処理で、他県ではセレクト乳剤の単用処理で残草が減少した事例がある。</p>
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中耕培土を確実に行う。</li> </ul>
参考	★ナルコビエは雑草図鑑に掲載されていないことが多い。イネ科雑草対象の茎葉処理剤を散布して残草する場合は、ナルコビエの可能性を疑う。